

アライグマの侵入状況はどうなっているか

熊本県立宇土高等学校 2年 外来生物研究班 田島 裕也 ほか4名

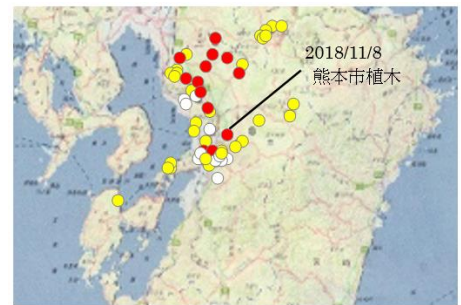
1 研究の目的

日本におけるアライグマは全て外来生物で、それらは、在来種の捕食、農業被害、文化的建物の損傷被害、人獣共通感染症を含む寄生虫の媒介を引き起こしている。現在九州地方では北部よりアライグマの分布が拡大している。私たちは被害拡大を防ぐため、アライグマの分布とその被害状況を把握することにした。まず、カメラトラップとかご罠によるアライグマの分布の明確化、次に、熊本で捕まえたアライグマのDNAを分析し熊本のアライグマの由来および侵入経路を明らかにすることを目的とした。

2 方法

熊本県中部の熊本市南区「雁回山」と宇土市「花園」「岡岳」の3か所に赤外線センサーカメラと箱罠を設置した。熊本市と宇土市の許可のもと第1期2019年6月1日から7月9日まで、第2期8月21日から現在まで設置した。

- ・センサーカメラは麻里府商事のLtl-Acorn 6310Wを使用した。44個の赤外線LEDライト、最大撮影距離13.5m、広角度100度で撮影した。
- ・罠は自作改造のかご罠を用いた。罠の仕掛けは筒状になっておりその中にエサを取り付ける。筒の大きさはアライグマの手がちょうど入る大きさであるので、アライグマしか罠のエサを取らないのでアライグマのみの捕獲が出来るという仕掛けになっている。



【Fig.1】 Appearance points in Kumamoto
○habitat ●trace ●capture

表 1	SDカード交換日	餌交換日	罠見廻り
「花園」	毎水曜日、土曜日	毎水曜日	毎日(台風、大雨を除く)
「岡岳」	毎水曜日	2週間に1回(水曜日)	毎日(台風、洪水を除く)
「雁回山」	毎水曜日	毎水曜日	毎日(台風、洪水を除く)

- ・アライグマを捕獲した際に使用するCO₂処理装置できる、道具を準備した。
- ・捕獲したアライグマのヒゲの毛根で、DNA鑑定を大分のNPOに依頼した。その鑑定結果から本県のアライグマが、福岡県、大分県、長崎県由来か、ペットが熊本で放逐されたものかを推定しようとした。

3 結果

326カメラ日のデータが得られた。罠を延べ293日仕掛けった結果、右の8種の在来の哺乳類の出現頻度を地区別、種類別に算出できた。アライグマの捕獲には至らなかったが、本調査地にアライグマがいないとは言えず、生息密度は極めて低いと類推された。

表 2 出現した哺乳動物

boar	<i>Sus scrofa</i>
raccoon dog	<i>Nyctereutes procyonoides</i>
badger	<i>Meles meles</i>
weasel	<i>Mustela</i>
marten	<i>Marten melampus</i>
Japanese deer	<i>Cervus nippon</i>
hare	<i>Lepus brachyurus</i>
mouse	<i>Apodemus sp.</i>

4 考察

多数の在来種と外来種をカメラにとらえることができたがアライグマはカメラや罠にとらえることができなかった。その上、罠に在来種もかからなかったので誤捕獲がなかったことは良かったが、まだ改良の余地がある。

アライグマは植木町に9月9日に見つかっているが、上記より宇城、宇土地区にはそう多くないことが分かる。

しかし、県北のアライグマ個体群と交雑すると雑種強勢で荒い個体が産まれる可能性がある。

今後、アライグマの痕跡発見報告があった南関を視察し痕跡を見抜くスキルアップを図る。

また、県の自然保護課から各自治体経由で狩猟者にDNAサンプルとしてヒゲの提供依頼が出ている。